

令和2年10月の解説（週間天気予報）

【10月の天候状況】

上旬は、北日本と東日本では、低気圧や前線、湿った空気の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多かったため、日照時間は北日本と東日本でかなり少なくなりました。また、台風第14号が10日頃にかけて本州の南海上をゆっくり東進し、本州南岸に停滞する前線の活動が活発化した影響等で、伊豆諸島南部に一時大雨特別警報が発表されるなど、東・西日本太平洋側を中心に大雨となった所があったため、降水量は東日本太平洋側でかなり多く、西日本太平洋側で多くなりました。一方、西日本と沖縄・奄美を中心に湿った空気の影響を受けにくかったため、降水量は西日本日本海側と沖縄・奄美でかなり少なく、日照時間は沖縄・奄美で多くなりました。気温は、暖かい空気が流れ込みやすかった北日本と西日本と、高気圧に覆われて晴れた日の多かった沖縄・奄美で高くなりました。

中旬は、北日本、東日本、西日本では、高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わりました。高気圧が日本海から北日本を進んだため、降水量は東日本日本海側はかなり少なく、北日本日本海側で少なくなりました。また、西日本日本海側の日照時間は多くなりました。一方、東日本太平洋側では前線や湿った東風の影響を受けやすかったため、日照時間は少なくなりました。気温は、北日本、東日本、西日本では、期間の前半は暖かい空気が流れ込みやすかったですが、期間の後半は寒気の影響を受けやすかったため、平年並となりました。一方、沖縄・奄美では、暖かい空気に覆われやすかったため、高くなりました。

下旬は、22日から23日にかけて前線を伴った低気圧が日本列島を発達しながら通過した影響で全国的に天気が崩れ、東日本日本海側や西日本、沖縄・奄美では大雨となった所があったため、降水量は西日本日本海側でかなり多く、東日本日本海側と西日本太平洋側、沖縄・奄美で多くなりました。北日本日本海側ではその後も低気圧や前線の影響を受けやすく、日照時間は少なくなりました。一方、東日本と西日本では24日頃からは移動性高気圧に覆われやすく、晴れた日が多かったため、日照時間は西日本日本海側でかなり多く、東日本と西日本太平洋側で多くなりました。気温は、低気圧に向かって暖かい空気が流れ込みやすかったため、北日本では高くなりましたが、東日本以西では25日頃を中心に寒気の影響を受けたため、平年並となりました。

【10月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3～7日目平均)は、例年値^(注)よりも3ポイント高い76%でした。地方別の適中率では、北海道、東北、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州北部、沖縄の各地方で例年値を上回りました。

最高気温の予報誤差(2～7日目平均)は、全国平均で例年値よりも0.2℃小さい1.9℃で、北海道、東北、北陸、中国、九州北部、九州南部、沖縄の各地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差(2～7日目平均)は、全国平均で例年値よりも0.3℃小さい1.7℃で、北海道、東北、関東甲信、近畿、中国、四国、九州北部、九州南部、沖縄の各地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【12月の週間天気予報の利用にあたって】

12月は、本格的な雪の季節の始まりとなります。北日本では雨よりも雪となる日が次第に多くなり、天気予報では降水が雪となるか雨となるかが重要なポイントとなります。天気予報では、「雪」や「雨」という予報だけではなく、雪になる地域や時間帯の割合が大きいときは「雪か雨」、また、雨になる割合が大きいときは「雨か雪」と発表しています。これにより雪の可能性がわかりますので、雪への早期の備えに週間天気予報をご活用ください。